

2017年10月9日

## ICANのノーベル平和賞受賞を歓迎します 世界各国に核兵器禁止条約の批准を求めます

パルシステム生活協同組合連合会  
代表理事 理事長 石田 敦史

私たちパルシステムグループは、「心豊かなくらしと共生の社会を創ります」を基本理念とする生活協同組合のグループです。

ノルウェーのノーベル委員会は2017年10月6日(金)、2017年のノーベル平和賞を、核兵器の廃絶を目指し「核兵器禁止条約」の採択に貢献した国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)に授与すると発表しました。受賞したICANに心から敬意を表するとともに受賞を歓迎します。

核兵器禁止条約は、細菌兵器や化学兵器、クラスター爆弾などの禁止条約と同様に、人道的視点から核兵器の製造や保有などを禁止しています。前文では、核兵器を「壊滅的な人道上の被害を招く」と位置づけました。また「hibakusha (ヒバクシャ)」が2カ所にわたり明記され、核実験の被害者とともに「引き起こされる受け入れ難い苦痛と危害に留意する」ことが盛り込まれています。

国連本部で採択された核兵器禁止条約は、129カ国が参加し122カ国の賛成多数で採択されました。核兵器を違法とする条約が国連で採択されるのは、歴史上初めてのことです。交渉には、参加各国政府のほか、ICANをはじめとするNGOほか、広島・長崎の被爆者、世界各地の核実験の被害者などによる多くの尽力がありました。

一方、「唯一の戦争被爆国」である日本政府は当初から条約交渉に反対し、現在も条約に参加する意思を示していません。安倍晋三首相は2016年5月、当時のオバマ米大統領とともに広島を訪問し、「核兵器のない世界を必ず実現する。その道のりがいかに長く、いかに困難なものであろうとも、絶え間なく努力を積み重ねていくことが今を生きる私たちの責任であります」と演説しました。条約への不参加は、核兵器廃絶へ向けた主体的な行動とはいえ、その言葉を反故とするものです。パルシステムグループでは、日本をはじめ各国政府へ核兵器廃絶を求める「被爆者が訴える核兵器廃絶にむけた国際署名」を呼びかけました。寄せられた署名は182,208筆にのぼり、国連に提出されました。

被爆者のみなさんは72年前、私たちの想像を絶する悲惨な経験をしました。二度と同じ過ちを繰り返さないため、高齢になった現在もなお核兵器廃絶の必要性を世界へ訴えています。日本をはじめ世界各国は、被爆者のみなさんの想いに寄り添い、核兵器のない世界の実現のために責任を果たすべきです。

核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊します。

核兵器のない地球を次世代につなげていくために、パルシステムグループは日本をはじめとした各国政府に対し、以下を呼びかけます。

1. 壊滅的な人道上の被害を招く核兵器を廃絶し、核兵器禁止条約に批准をしてください。
2. 被爆者の声に耳を傾け、思いを受け止めるとともに、「核兵器のない世界」の実現を世界へ働きかけ、積極的に役割を果たしてください。

以上